

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 23 章 56b 節-24 章 12 節>

1 (23:56b-24:4) 主イエスへの思いは強い、しかし復活は全く想定外。

安息日が明けて動いてよくなるや否や、婦人たちはイエス様の遺体に塗る香料を持って墓に行きました。しかし実際には大きな石が入口を塞いでいて中に入れなことを婦人たちは知っていました（マルコ 16:3）。主イエスを慕う思いの大きさを知らされます。その婦人たちもイエス様の復活は思いもよらないことでした。遺体が見当たらず途方にくれたのがそのことを示しています。

2 (5-10b) 婦人たちはイエス様が復活されたことを納得した。

初めてここを読む人は、「輝く衣を着た二人の人」(4)に驚くかもしれませんが（マタイ福音書では「天使」(28:2)）。しかし、もし神様が本当におられるなら、神様がこういうことを起こされてもそう驚くことではないでしょう。もっと大事なことは、彼らを用いて婦人たちに悟らせようとされたことは何かです。それは、神様がイエス様を復活させられたということです。最初荒唐無稽に思われたことが、その意味や理由が分かかって来ると理解できるようになることがあります。婦人たちを理解に導いたものを二つ挙げるができると思います。天使は、「なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか」(5)と言いました。「イエス様は死なれたのではない、生きておられるのだ」、そう婦人たちに思わせたことでしょう。もう一つは、イエス様が語られていたのを思い出したことです(9:22, 44, 18:31-33)。この二つのことは今の私たちに関係ないわけではありません。18:31 でイエス様が言われたように、これらのことは聖書に記されており、今の私たちもそのために神様が与えて下さった聖書の内容を学んでいく中で、神様がどのようなお方であるか、私たちはどのような存在であり、神様がイエス様に託された意味（イザヤ書 53 章）を知る者とされていくからです。

3 (10b-12) 男と女の比較ではなく、人間と神様の比較こそが大事。

ここを読むと、婦人たち女性より弟子たち男性の方が愚かなのではと思うかもしれませんが。しかし、ここで考えるべきは、神様のなさることを自分の頭で考えて受け入れようとしない男も女も含む全ての人間と、それにもかかわらずその人間を見捨てず理解に導いて下さろうとする神様です。イエス様の復活がそれを解く鍵なのです。